小島・柳原遺跡群出土の塔鋺形合子

長野県埋蔵文化財センター

1 概 要

出土遺跡:小島・柳原遺跡群(長野市柳原 1622 ほか)(図 1~3)

調査原因:国土交通省長野国道事務所による一般国道 18 号長野東バイパス改築工事

出土年月日: 平成 28 年 10 月 7 日 名 称: 塔鋺形合子の蓋(図 4)

素 材:

銅、鉛、スズ、ヒ素からなる銅合金(表 1)。奈良国立博物館によれば、本来青銅製品はスズがもつと多いが、鉛が多い点や少量のヒ素が含まれる点は、奈良時代の製品の特徴。

	銅	鉛	ヒ素	スス゛	鉄	備考
合子本体	31~49	8~19	3~6	1	10~17	口縁 2、胴部 2、計4ヶ所測定
合子先端	60	13	10	1	1	
(参考)銅椀	18~25	42~45	3	0.1	2~3	同遺跡出土の別製品

表1 成分分析結果

※主要成分のみ。いずれも%

法量:

本 体:高さ 6.3cm、口縁径 7.8cm、最大胴径 8.2cm、厚み 1~2mm、重さ 102g

相輪径:第一段 3.5cm、二段 3.1cm、三段 2.6cm

最上段径: 1.6cm (竜舎か)

構 造:

仏塔の相輪がつく合子の蓋。三段の相輪の上に、竜舎、宝珠がつく(本品の宝珠は 欠損)。この蓋に対応する身には、台脚が付くと考えられる。本体を鋳造したのち轆轤 引き仕上げ(本体を回転させ、器身を薄く削る作業)を施すと考えられている。

本品の最上段の裏側には、鋲留めが見られる(図 5)。正倉院黄銅合子(図 6)にも同様のものが見られる。本品も蛍光 X 線分析で蓋本体と、最上部は成分が異なり(図 7、表 1)、透過 X 線観察(図 $8\cdot 9$)でもスリットが見えることから一鋳(全体を一度に鋳造)ではなく、別鋳(部分を別に鋳造)である可能性が高い。

付着物:

先端に径 10 シクロン程度の繊維が付着する。絹や麻の糸の可能性がある(図 10・11)。 合子本体は、鉄やリンが多く検出されている。土壌の影響も考えられるが、意図的に 塗布され、金属製品の発色を良く(誘色)するための処理が行われた可能性がある。

用 途:

心下や中国では舎利容器の例もあるが、高さ 30cm 程度とかなり大きい。正倉院の合子に香抹が付着する例や玉虫厨子等の絵画資料(舎利供養図)に柄香炉と塔鋺形合子を持つ僧侶が描かれる例がある。日本では、仏事の香合(香の容器)とされる。

年 代:

宮内庁正倉院事務所によれば、本品は正倉院の作風に近いが、本品は、口縁(端部)がやや丸みを帯びる。法量や作風が共通する日光男体山のものは、平安時代まで下る可能性がある。奈良時代末から平安時代初か。

類例:

法隆寺献納物(1組、東京国立博物館蔵)、正倉院南倉(10組)、 日光男体山山頂遺跡(13点)

2 遺跡の詳細

地理的環境:

千曲川左岸自然堤防上微高地の南東側、同支流の北八幡川と村山堰に切られている。 歴史的環境:

善光寺(仁王門)の真東 6km に位置。遺跡を東西に横断する市道 117 号線は、善光寺往来道とも呼ばれ、条里地割に一致することから水内と高井の両郡衛を結ぶ古代官道に起源を求める説もある。周辺には中俣城跡や長命寺跡(推定)など中世の城館や寺院跡がある。

調査履歴:

同遺跡群では、中堰 (2002)、水内型一元神社 (1974~2007)等で、調査歴がある。 いずれも小島地籍 (自然堤防の北西側)が大半で弥生~平安時代の遺構が検出されている。柳原地籍 (自然堤防の南東側)の調査は、今回が初めて。

調査概要:

調査対象面積 6,300 ㎡のうち、本年度は 6 月~12 月にうち 3,000 ㎡を調査し、古代の竪穴住居跡 15 棟、中世の大溝 1 条、中世末から近世にかけての墓坑(土葬・火葬) や五輪塔群が検出されている。

出土遺構:

竪穴住居跡 SB04 埋土中から出土。後世の遺構やかく乱は及んでいないことを確認して掘り下げた。一辺 6m の方形で、かいは東辺中央。土器が 30 点程度廃棄された土坑がある。灰釉陶器や黒色土器を含むが、土師器の坏が多い。高台が付く焼も見られる。遺構の年代は平安時代前期(9世紀末~10世紀初)か。

分析鑑定等:

保存処理指導(奈良文化財研究所、元興寺文化財研究所)、外形観察(奈良国立博物館、宮内庁正倉院事務所)、透過 X 線(県立歴史館)、蛍光 X 線成分分析(県工業技術総合センター)、繊維観察(信州大学繊維学部)

3 意義と今後の展望

遺跡からの出土:

全国では25 例目(県内初)。多くが伝世品で、<u>年代や場所が特定できる遺跡・遺構</u>からの出土は初めてである。考古学的に非常に貴重である。

美術工芸:

正倉院黄銅合子と同様に構造が複雑、作風も精緻。美術工芸品としての価値は高い。 地域史:

地域はもとより長野県の歴史を考える上で、重要である。また、単なる希少品というだけでなく、仏具であることからこれを用いた儀式や信仰が当地で行われていた可能性もある。さらに、なぜ小島・柳原遺跡群から出土したかを探求する必要がある。

分析観察:

考古学的な観察、分析はもとより、3次元CTによる透過観察、付着物の成分分析といった理化学的な分析、観察も行う。

保存処理: アルコールによるクリーニング後、ベンゾトリアゾールなどを浸透させ防錆をはかる。

公 開:

2月 18日 (土) \sim 24日 (金) センター出土品展:長野県埋蔵文化財センター 3月 18日 (土) \sim 6月 25日 (日) 県巡回企画展:長野県立歴史館

長野県埋蔵文化財センターホームページ http://naganomaibun.or.jp/にも詳細な画像及びデータが公開されておりますので、ご活用ください。

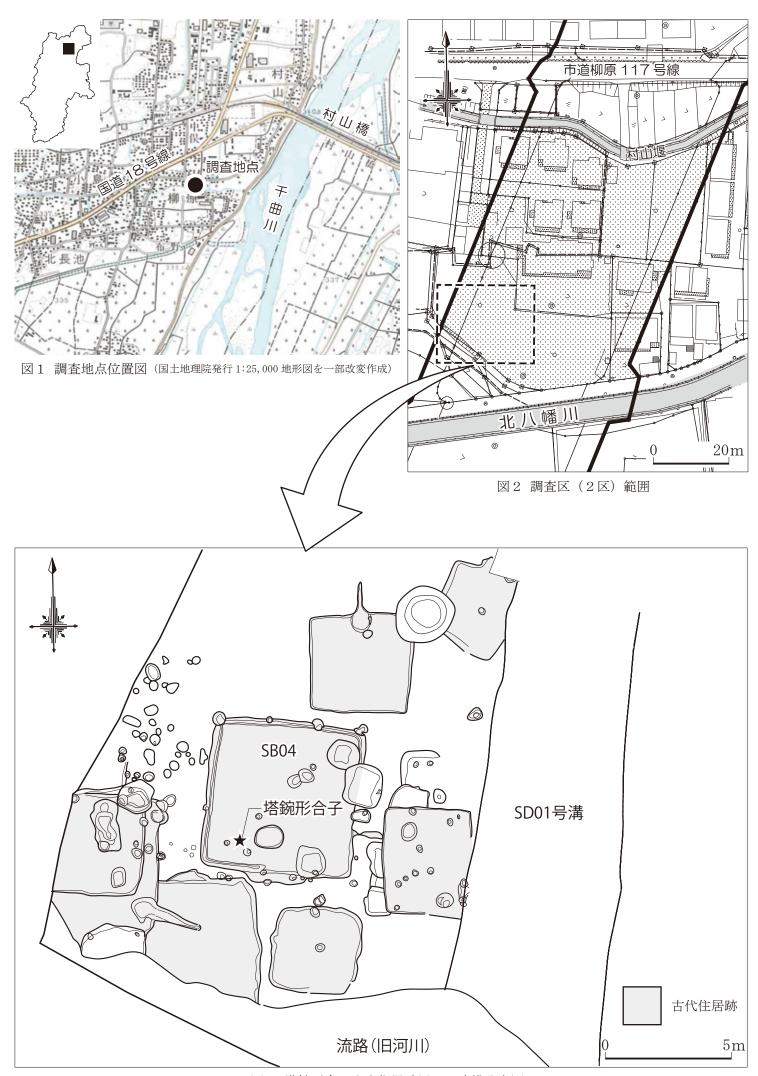


図3 塔鋺形合子出土住居跡周辺の遺構分布図



図 4 塔鋺形合子蓋

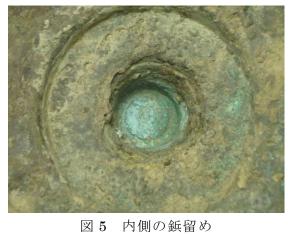
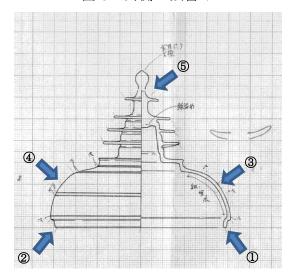




図 6 正倉院黄銅合子



蛍光 X 線測定箇所 図 7



図8 透過 X 線 (横から)

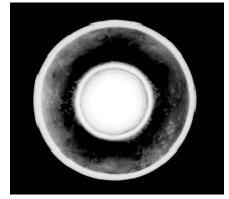


図 9 透過 X 線(上から)



図 10 付着繊維

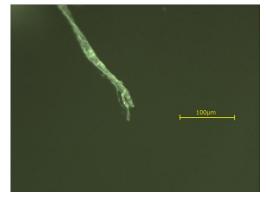


図 11 同拡大画像